

都林泉名勝圖會

一



部	番	期	價	格	所
門	五	一	〇		
	一	六			

六角堂池之坊の瓶花の専慶坊より發し専好法師中興と云ふ其妙と傳へ

山水幽食公純の瓶中小室の四季折々の茶本公自在ありて繁相と云はる所謂

十九箇條の秘傳ありて海内都鄙遠近亦門人多く毎茶七夕の目と云ふ其向

とて門子聚うて瓶花の精妙と云ふ其貴は百帝も潤進あり 将家云は成

敵事今み絶る事なり 二水記云池坊専順法師の立花のよありて後蓮宗の蓮人なり

侯ト云の御會の付十瓶と指すと云云 池坊家藏の書ハ後松永院清字大和

年中泰内の首青蓮院尊親親王清直筆の御文出世那法師輪院下

これいふまに池坊二十六代専順法師と云

其文云立文と

先刻と池坊系内殊に秘事ありて事亦 毅威

高し月一なりと傳是し其来月台口己あふの系内と云

とて望まじく中よりと云は作系と云おき上流極と云

信は伝ふ

い月々三日

信編院



池坊華道秘傳十九箇條目錄

- 七一色 松 櫻 水仙 紅葉 杜若 蓮
- 三箇胴 牡丹 竹
- 三箇流枝 中流支 龍流支
- 三箇之前置 松 薔薇 菊 蘭
- 二真 合真
- 小卷 信受 已上
- 大卷 傳授
- 生花七種 水仙 椿 芭蕉 蓮 牡丹 薔薇 蘭

老葉集 池坊寺願法師の祈りく連芳の後 若杖のありふ

建仁寺

五山の其箇く大和ス海 建仁二年源頼家公采西禪師と延く地と
 四條の南あり 王城の東ス施一之禪苑公言真言止觀の二院と據官寺と
 明庵 備中若備津の人其先ハ賀陽氏あり薩州
 刺史貞政の曾孫之孫發一其父の時仁安二年夏四月高船に乘り
 瀛海小波んく宗園明州界より着り嗣法と虚庵故和尚不語く建仁
 二年四月五日帰朝し高公廟と建仁二年七月八日寂し 年七十九

佛殿

向山堂

方丈

鎮守樂大明神祠

無盡燈

赤松圓心塔

當山十景

群玉村

清水山

扁額

悅可

龍藏

經見祠

土地堂 土師門院神牌 源頼朝係
 大悟堂 禪堂といふ 文殊菩薩と安ん
 佛殿 延慶 弘勸
 向山堂 向山堂西禪師係 脇土天童と安ん
 方丈 正觀多松安ん 東橋門院清善附
 鎮守樂大明神祠 佛中若備津社の末祖 向山の西親と祀祭す
 無盡燈 禪居唐風あり 摩利支天尊と安ん
 赤松圓心塔 大龍宮
 當山十景 法拙和尚の 意視閣 方丈 望闕樓 山門 大悟堂 僧堂
 群玉村 衆寮 入定塔 向山塔 樂神廟 鎮守 無盡燈 禪居唐
 清水山 第五橋 鴨川水
 扁額 三世如来殿 併殿 清涼軒 方丈 拈華堂 法堂
 悅可 維那寮 首座 若板 夢升 後板 等慈 吉記
 龍藏 東藏 虎林 西藏 春會 新客 希真 侍番
 經見祠 門ありあり 例東九月十六日宗礼魏々々々





織田
有樂齋
茶亭



建仁塔頭
正傳院



建仁寺畫墨曬掛虫干之圖

方丈

北觀者

觀輝子 建仁寺

龜山溪西原相 存之類

龜山溪西原相 龜山嶺

仰山像 九岩類

仰山像 古銅類

觀家像

猿猴 松 牧溪筆

北 阿山明庵像 自贊

猿猴 松 牧溪筆

叭々鳥 同筆

觀音像 月壺筆

叭々鳥 同筆

藥山 接李翺 為建仁方丈 牧溪筆

觀音像 室德寺寺月六日謹画 月壺筆

黃龍 接日洞廣 三軸共作之真相 牧溪筆

後水院 觀音 松

德教相

正傳院

什寶數あり繁しう之畧之
十一世義翁和尚 龜山院文永年中建其後慶長の頃續田
河内守長益再興之元和七年十二月十二日卒正傳院有樂如庵之号

書院

中 蓮筆
西 唐田攝

古法眼筆

東 耕作

同 筆

余 山水 額如庵

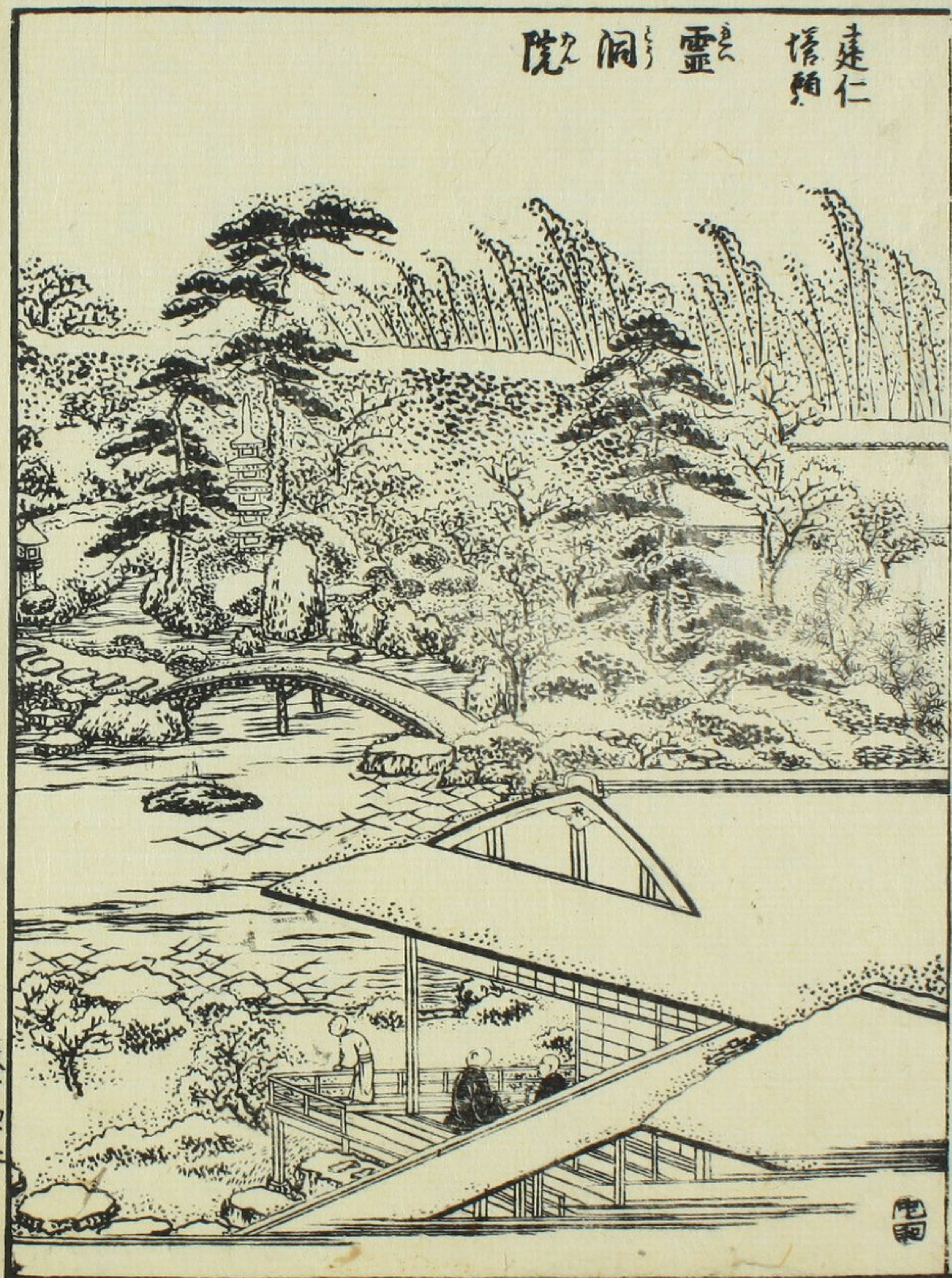
靈洞院

北六世為山和尚基
後醍醐帝元應年中建立

其外塔頭林泉名画あり畧之

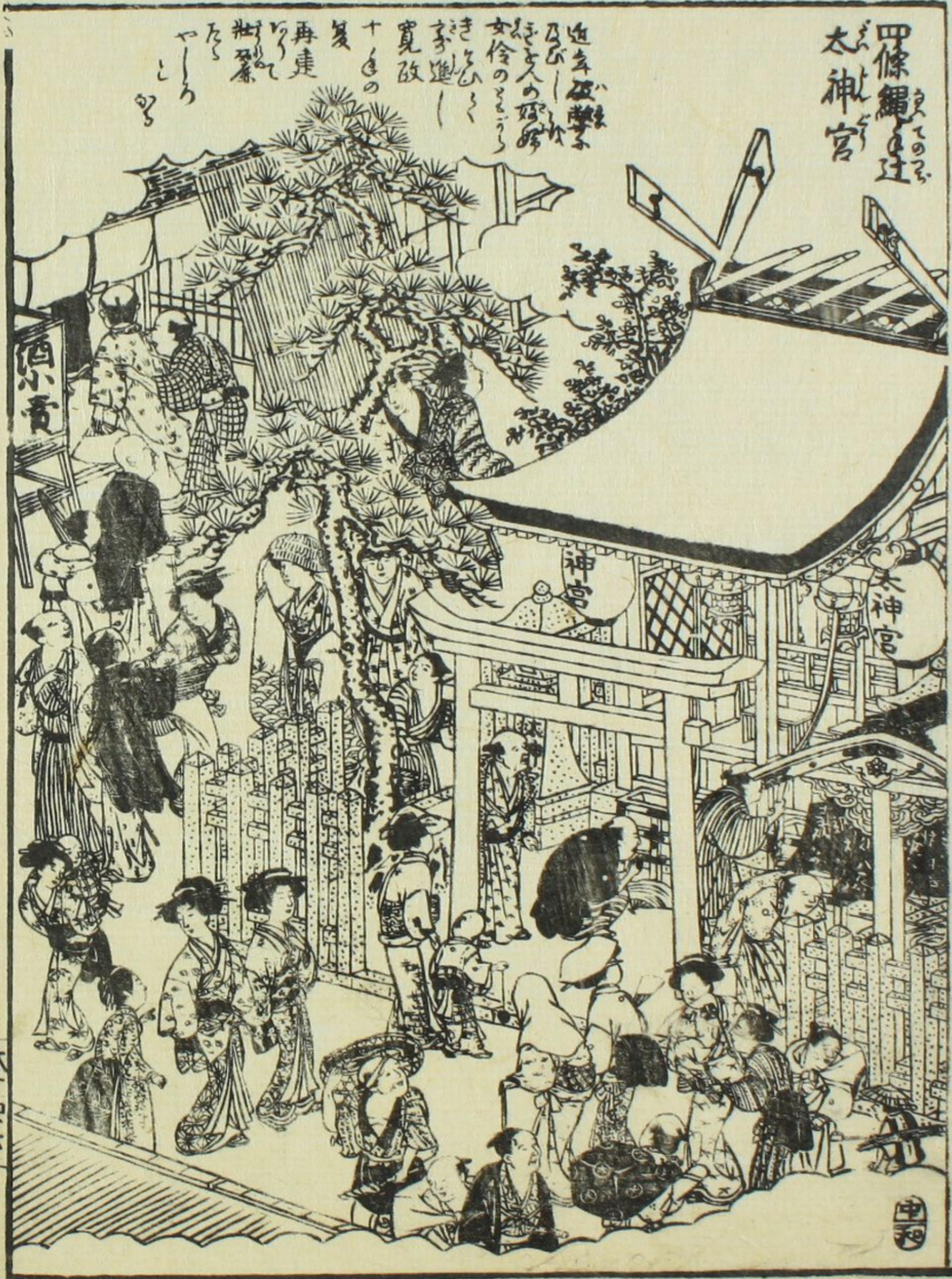


建仁
塔
靈
洞
院



印

四條御遷
大神宮



四條祇園橋

昔より三條五條並等官橋之久考元年二月廿九日橋造替
 ありて供養の事百練鈔より又安貞二年七月廿日暴風森るの付洪水溢
 はして四條五條の橋流し流る負和五年六月十日祇園執行意法師祇園
 橋を濟さんそを新造の田樂と合考お祭集り四條の京小橋を打ちたれり人
 希代の形集りて見物に異本 太平記 寶徳二年十月十日粟河末橋成統りて初あり政賢 雅記
 橋板も今も川に流るる都にわかれに方乃旅人 正徹
 往昔官橋ありしが洪水を扶ゆれば後世此橋もゆきとらる夜河原彦
 くを觀物付合茶廊多し特みふ月半祇園の夕涼且美艶と存風姿のゆき
 万燈の流し輝るる京表の壯觀みか平天下の謳歌あり
 月照紅樓隱翠楊徘徊倚檻夜如霜
 蛾眉長袖青絲騎箇箇馬成影也忙
 丈山の口の色より夕暮、美
 涼一こや形集の中よあ月の
 夕涼夜の都れりたの邪

栲亭
 蕪村
 足雅
 文瑞



文鳥




夕涼
 其武

登こて

登こて

夕涼

夕涼

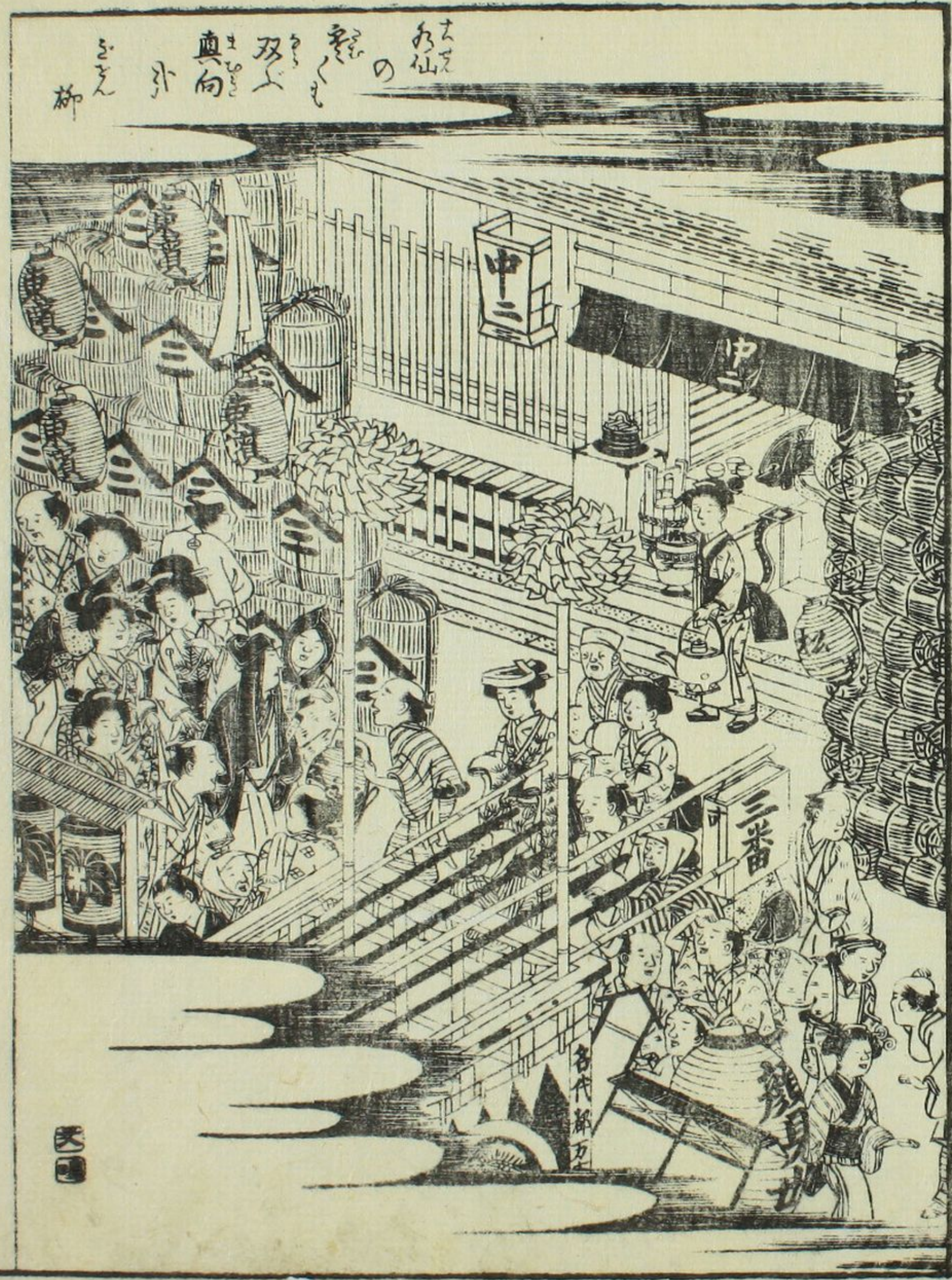
三子
 美人

か
 かな

涼

六柳軒

文鳥



八五

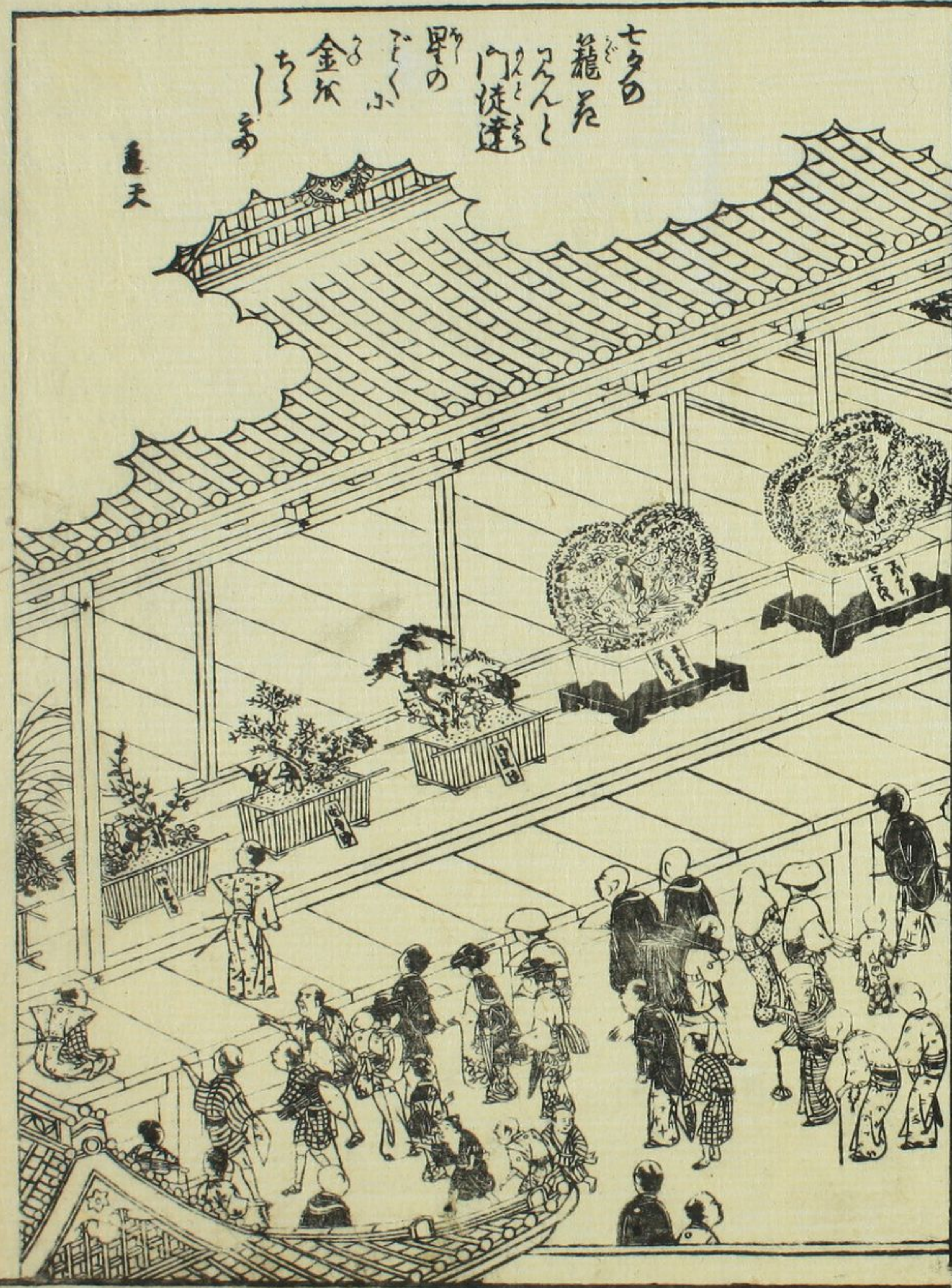


布園寺中
真如院
瓜實地爐
真水水

真如院
烏帽子掛石



本園寺は足利尊氏公の叔父日静上人住職の時定額寺とあり靈室あり之像
 釋迦佛宗祖日蓮上人の真蹟を奉り曼荼羅とありみか堂名あり其外祖師の
 真容多し微宗皇帝の仲乃画同様の幅對中六捕丸様右の羊之堂宗皇帝
 所持の笠耕作の画は屏風は持世古法眼の筆繫馬の二枚屏風若法又是の筆
 廊下の半障は加茂清政朝鮮より持歸りてあり其外名画古畫若干
 あり敷敷多しあり心とあり公畧於寺中瑞雲院は秀吉公寓居の古蹟之遺蹟の
 後寺を百石成賜ふ故也世百石寺といふ者祥院にも秀吉公位一の古趾
 あり真如院の庭に瓜實燈籠ありはれ足利將軍 義昭公の銘 烏帽子石義昭公烏帽子成
 掛並のひしとあり直水といふ名泉あり又春庵院の庭中奇境あり
 本願寺西六 七夕の籠に數百家老候人院外より献上にされ瓜對面所
 椽側は飾りとも未活の詔人小觀すむ又中元の日燈燭教箇家祀成
 とのく候人院外より持くまはるんやとく門徒の衆群若し七御堂に
 活と是みか古木より内裏と表とるとせゞせり

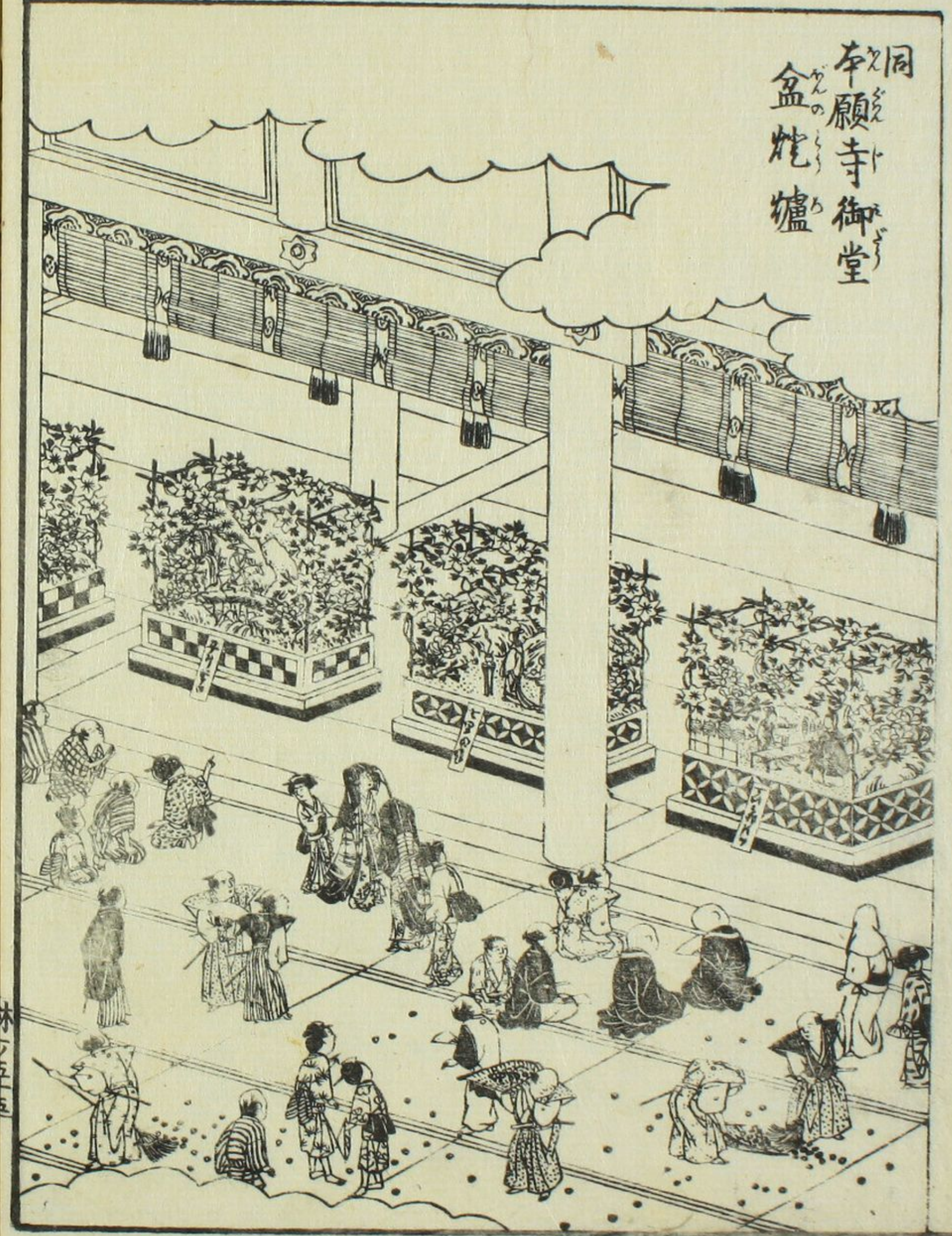
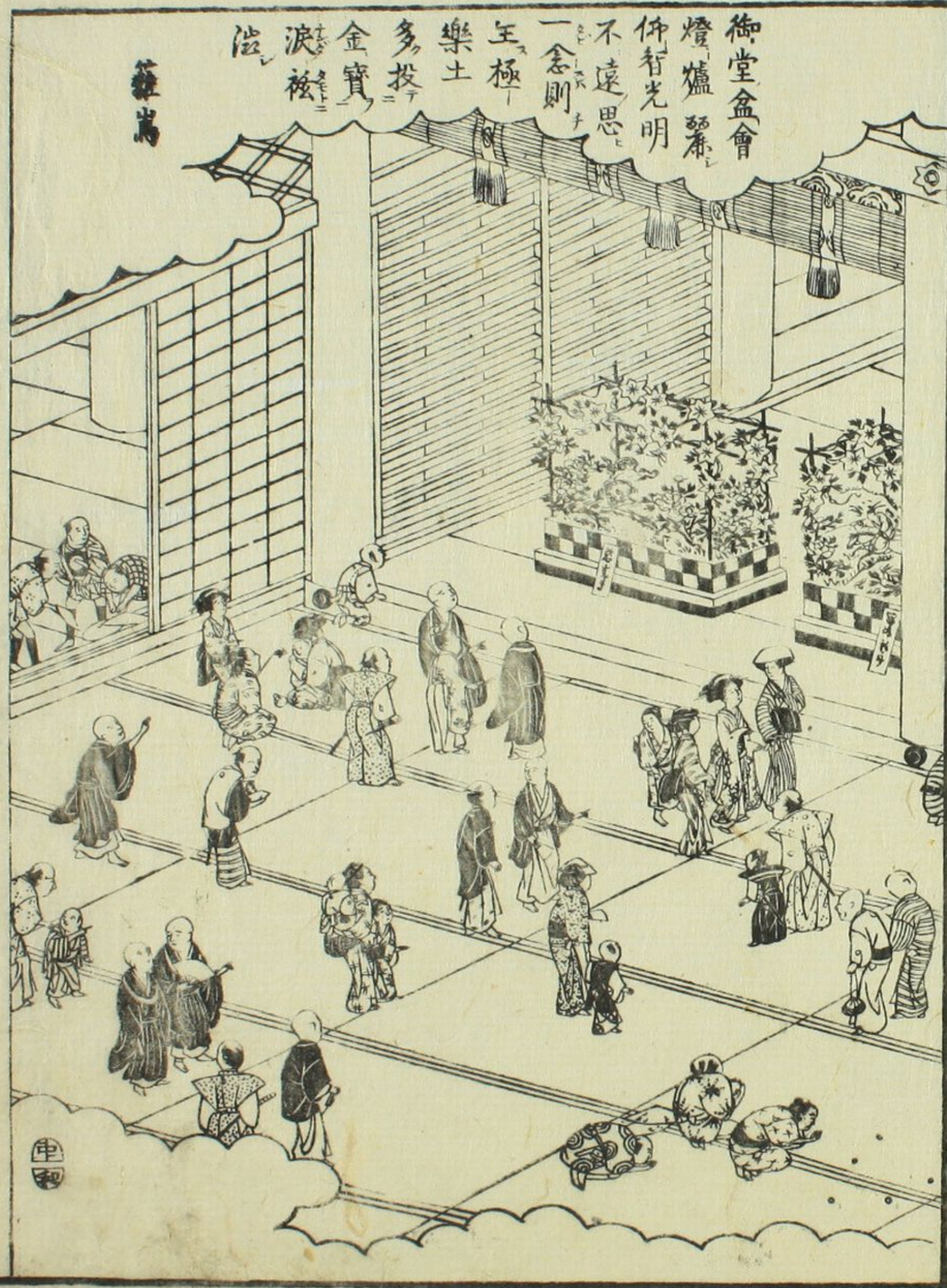




西六條
敬願寺
對面
林泉



林泉



東本願寺

東六條 近年文明の末田祿神の災小罹りより直江州八尾の

御堂を引移して候本堂より諸國より教子の門徒競集りて新初より

之本石教百石附一杉骨碑身として出立意は多の年を累に本堂

阿彌陀堂菊の門南此門を園透樓鼓樓之寢殿小寢殿日書院

黒書院醫の園園の殿舎の教を庫藏基新茶新に至ると嚴重壯麗

くく成就し今年生廿八日本堂開山尊影の遷座卯月二日より

阿彌陀堂の遷併ありあまは祥せんく園東園西及び鳴りて波濤

を凌に船麻の如く泰祐の門徒境内の家より充滿せり實開山親書

聖人末代の機法を鑑く道俗男女と安く若新に至りて今宗風弘道

結ひしを有難し又やうとされ

は館舎の中より大寢殿小寢殿の名目ありあまは按てふひうは此の東主

之位補親卿の殿舎之具棟殿は丹後の海橋立に依りて

茶紙より之を寢殿の名目あり後世當寺の殿舎を建られし時

歌人みく新古今集に撰れお入せり人々

南院ハ海橋立也輔親卿家之為見月寢殿南庇不差之云

懷圓カ池水ハアノ河ニヤカヨフラントヨム此新テ詠也月明衣テ以向

ハニ衣ヌテ人モ子ヌラント思フニ寢殿ノ南面ニ輔親一人月ヲ今テ是テ干時

相ノニ糸興ニ詠此哥曉更ニ帰ルト云

東鳩臚館趾 帝王編年記云南七条坊門延南七条東西

續日本後紀云 美和六年八月辛酉以東鳩臚院地二町宛典藥

寮為御藥園

又槐秘抄云

七条朱雀東為鳩臚館とす所の異國の人まの付なるを

少きあんにひける村上の布日記に密瓜の多採と鳩臚館乃

形ふ多きひく鳩臚みうさせられ米よりとていれま云

いふ人候と月よりるるをいれり

帝王編年記云 延喜八年渤海客來朝於鳩臚館

和漢朗詠 前途程遠馳思於鴈山之暮雲

後會期遙霜纓於鳩臚之曉渡

後江相公

六條内裏

拾芥抄云北六条坊門南六条通西六条洞院東高倉あり
二年新宮宮家遷り六條内裏あり又二條院ともいふ皇女郁芳門院承
徳の御孫徳照六条御堂と華て禪師とると万壽寺これなり其後
塔頭三聖寺の内に遷居
園太曆云

白河院承保三年八月廿日六條新宮棟上也續岐守顯季造營之

百練抄云 承保二年十二月廿一日迁幸新造六條皇居

中右記云 寛治八年正月二日行幸上皇御所六條殿郁芳門院同御此所

百練抄云 保安四年十一月十日六條院焼亡本郁芳門院御在所今為仙洞

家集 六条院より遷居入奉り云題と接せ給ひし

中右記云 楊花のよのまをさるるにちりさかへりてそと

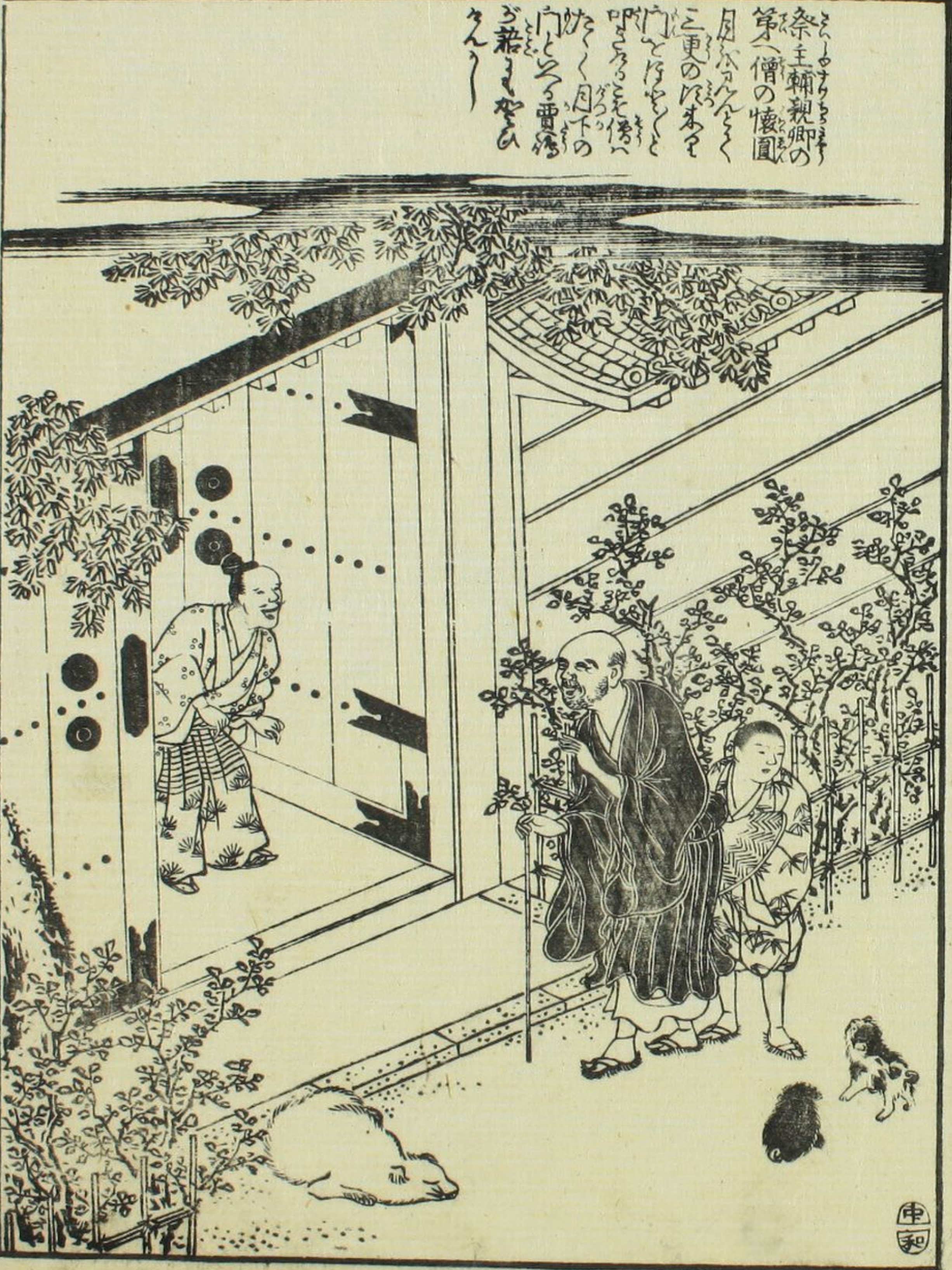
天仁元年八月七日郁芳門院御國忌也未刻許泰六條御堂

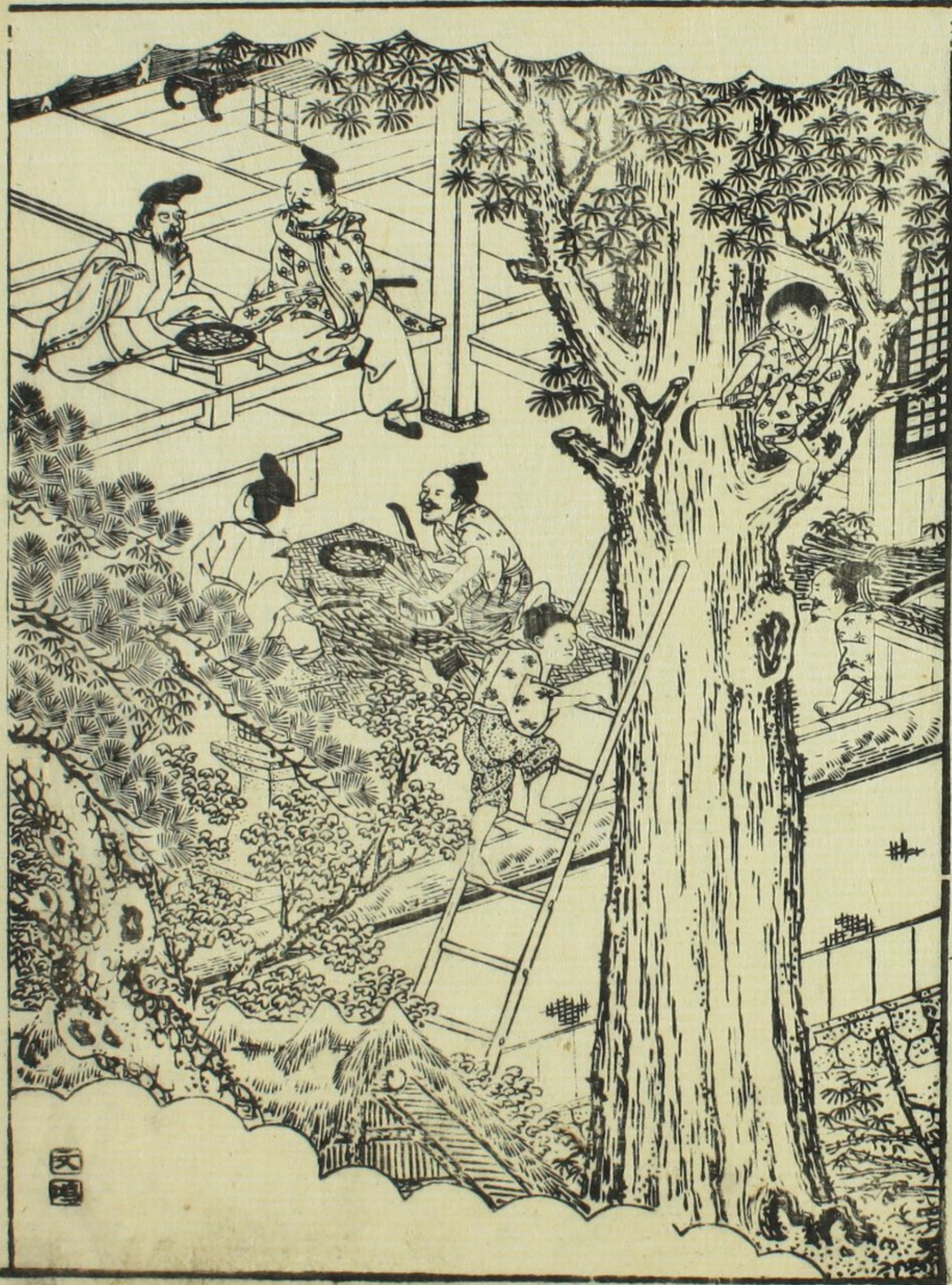
釣殿院 拾芥抄云六条北東洞院東号六条院

三代實録曰 光孝天皇御所云云付属淳子内親王
天長八年生天皇 於東京六條第 拾芥抄云光孝天皇降誕所

釣殿院今六條院也 藤注云云原氏其のほり居り
六条院あり今の名ある也

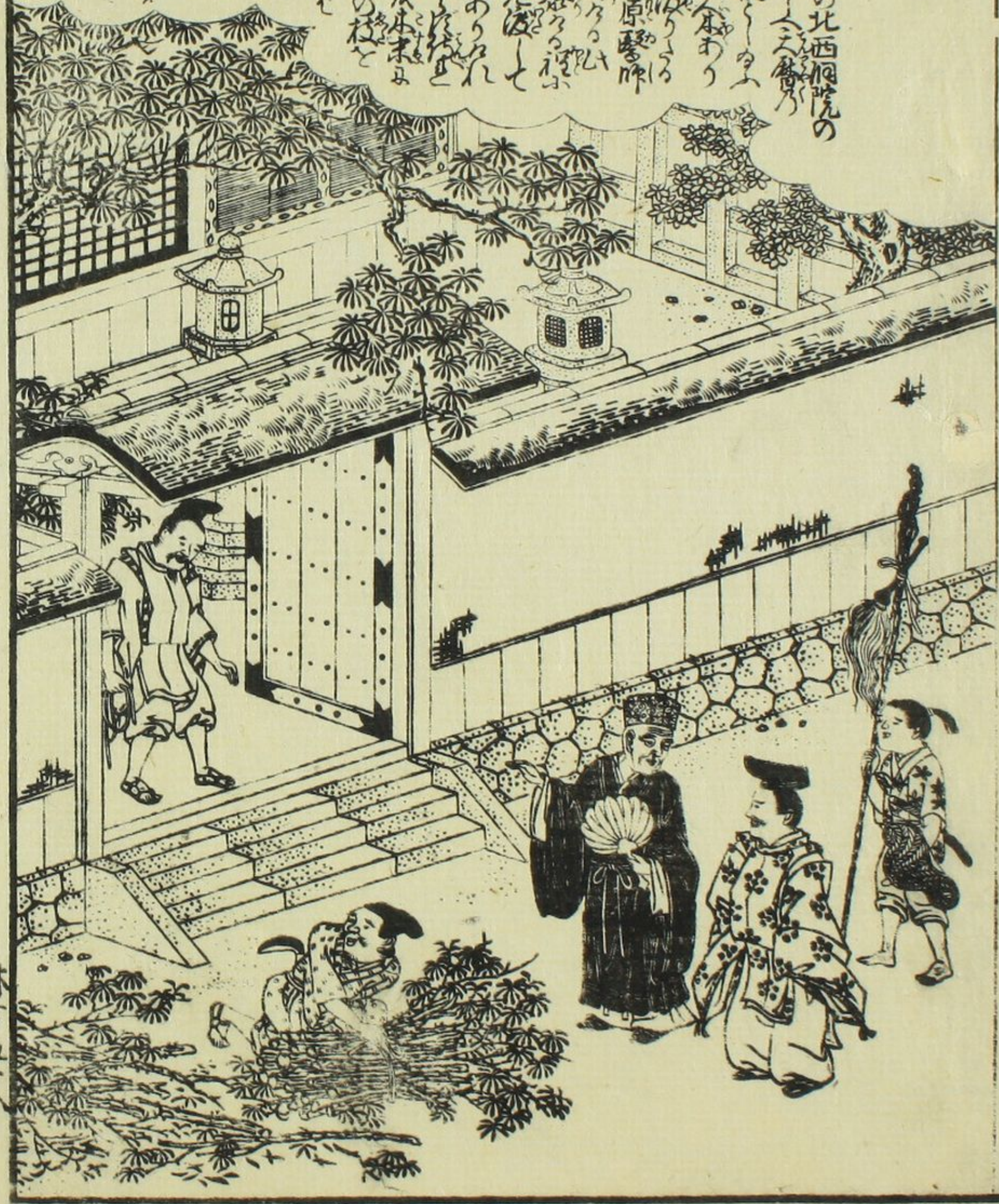
奈主輔親卿の
第一僧の懐圖
月かかへんく
三更の夜本を
明くしつゝ
かゝるる月下の
門とる曹
ぶ若くやひ
えん





桂宮

桂宮六條の北西側院の
西の院の一角に三層の
帝御殿あり
門を以て桂宮と云ふ
傍に長考の原野あり
長考宮あり
桂の樹心あり
桂心は圓まあり
とて人見を
そとて
切下りし
唐の樹心
か





林ノ五

生



林六十八

遍照心院

八條掃司 六孫王源經基公と礼す 文徳五年薨逝し終へる所の小御所と

其後鎌倉右大臣實朝公の後室之位禪尼 法名本學坊 大極殿と成

本幡廻心上人と信し 岡山とて戒律之論直言弟學の淨刹とて

鎌倉二位禪尼 政子 伊豫園新居をてまゝに右府將軍の菩提場と

かゝり正堂より阿弥陀 并 四天王像と安んず 運慶の作 方丈より中央

寶冠釋迦佛 左 源實朝公 永元元年正月廿七日 休咎 本願 三人

八條禪尼 文永十一年九月九日 逝す 方丈額 後窓 遍照心院額 光悦書 誕生水 方丈の東

舟財天 當山年茶久しく大井荒廢の体今昔お語りんえりて小

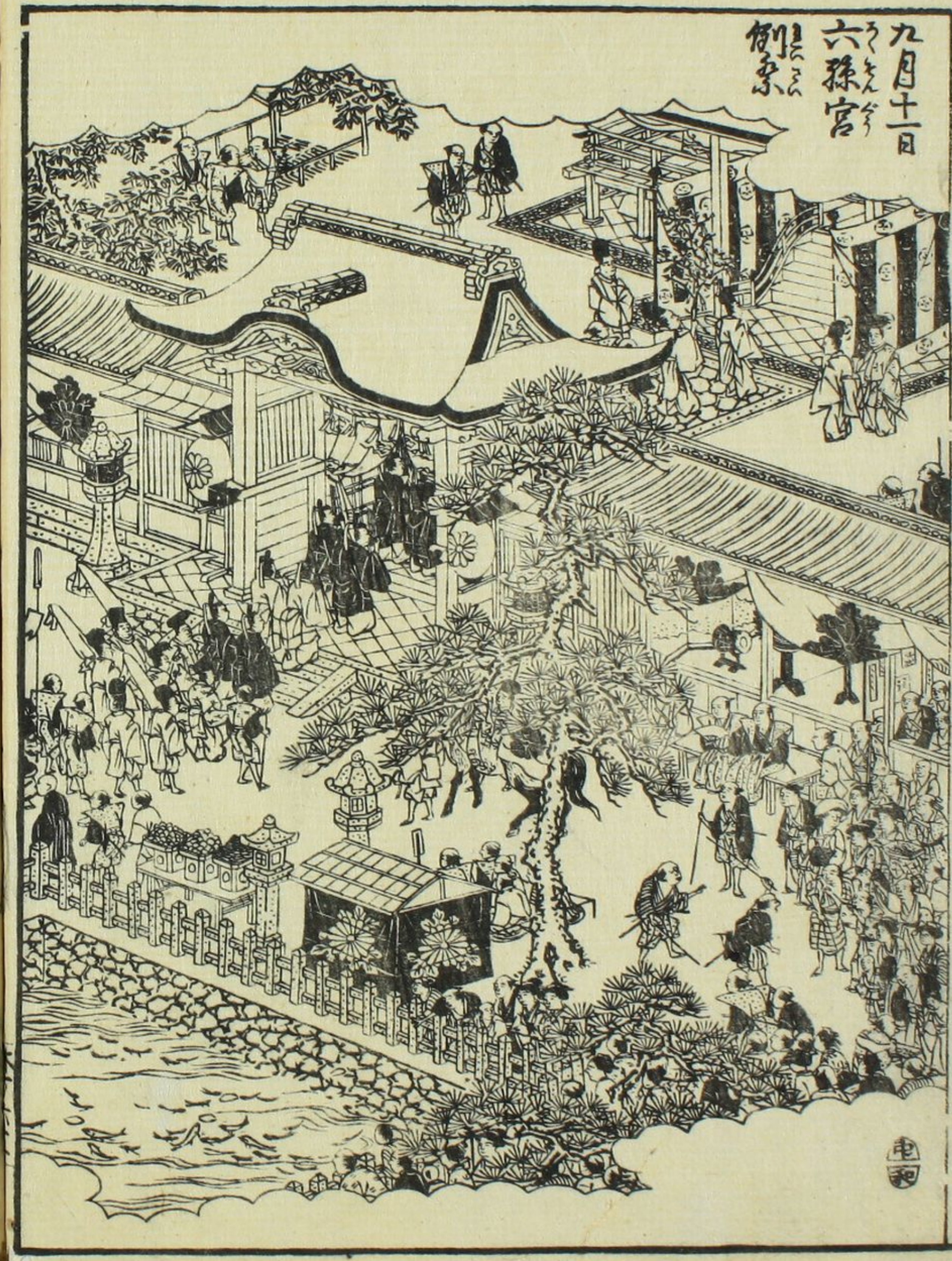
室永年中坊中東林院南谷師 將軍家願く今の如く敷布を再

興ふ乃其上例茶九月十日神事放生供養あり 南谷師は近代の禪者として世の

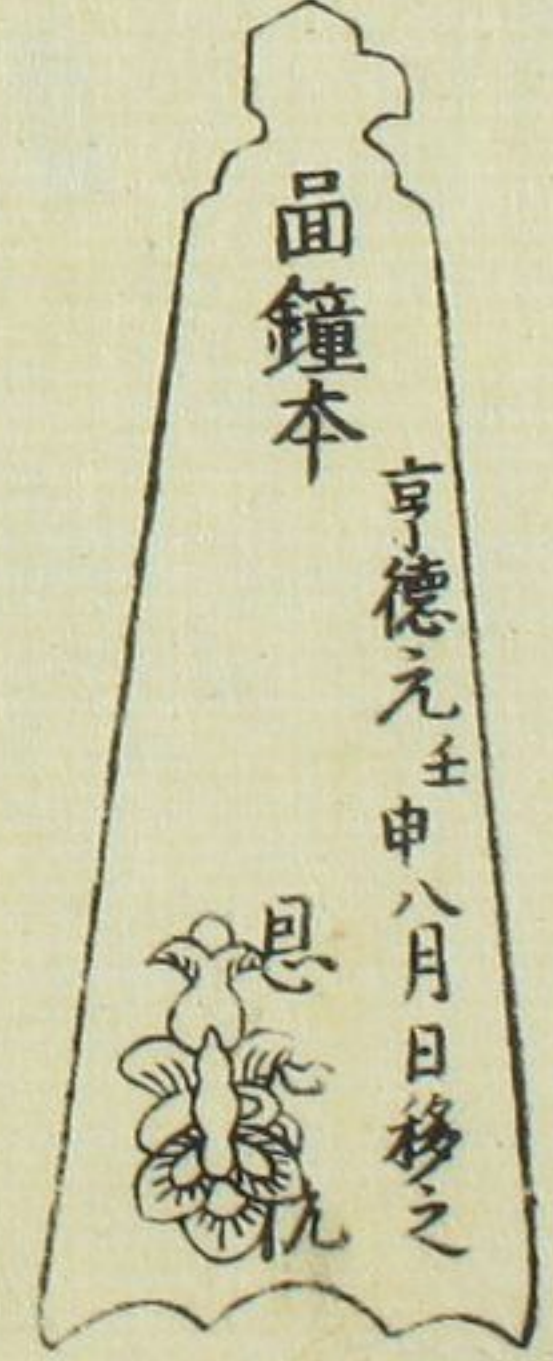
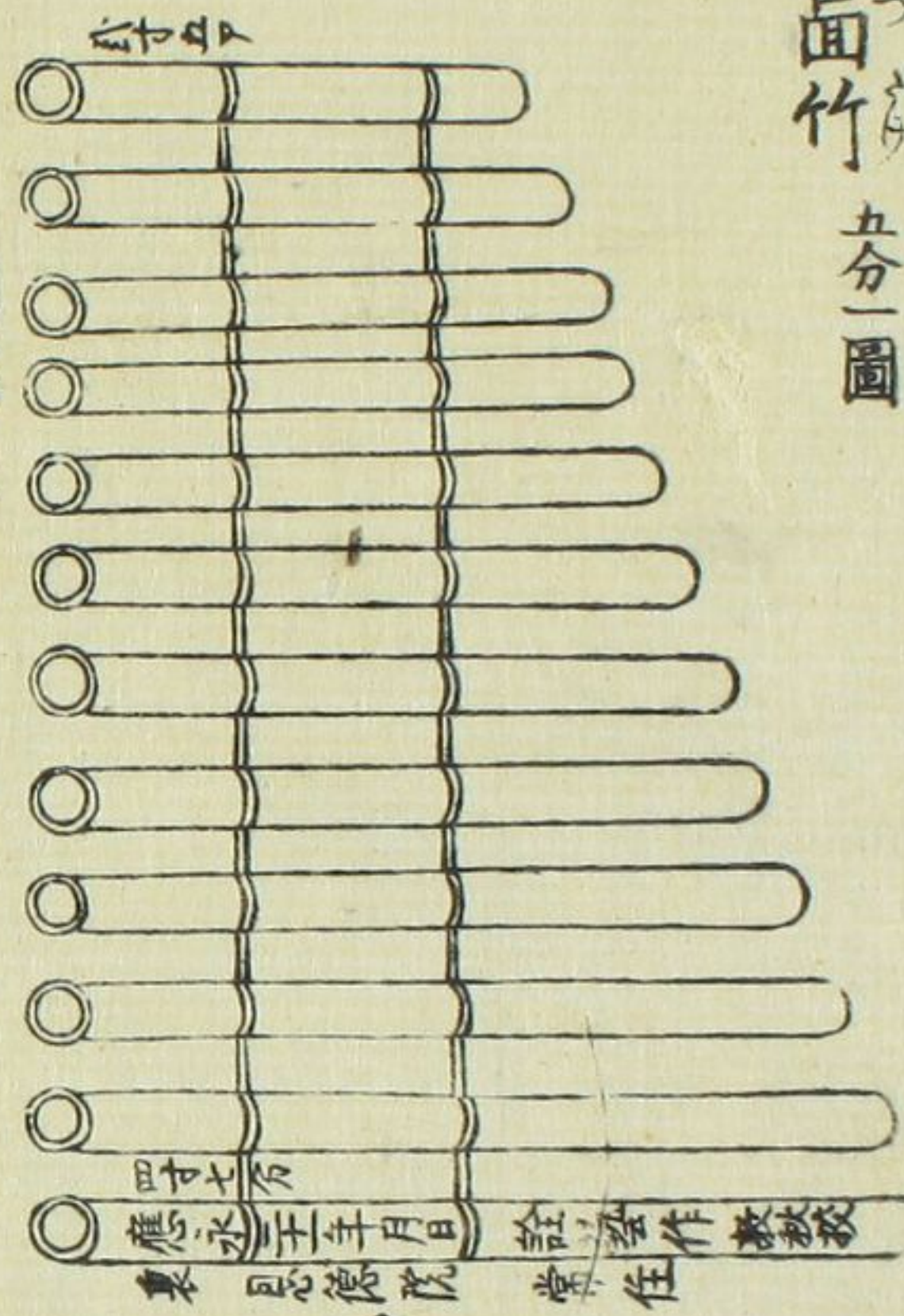
方丈の林泉へ廬山を移し諸樹を修す本と連山の體をあらは枝を挽て

飛泉とて白砂を布て流水とて風景真妙之初は後窓園師の作之後世に

及んて伏見の朝秀佛とて助てふ者補修とてる系師を造の一奇品と



遍照心院の宝寶殿の持 將軍家清宗附の武器多し又老律の圖竹あり
 面竹 六分圖



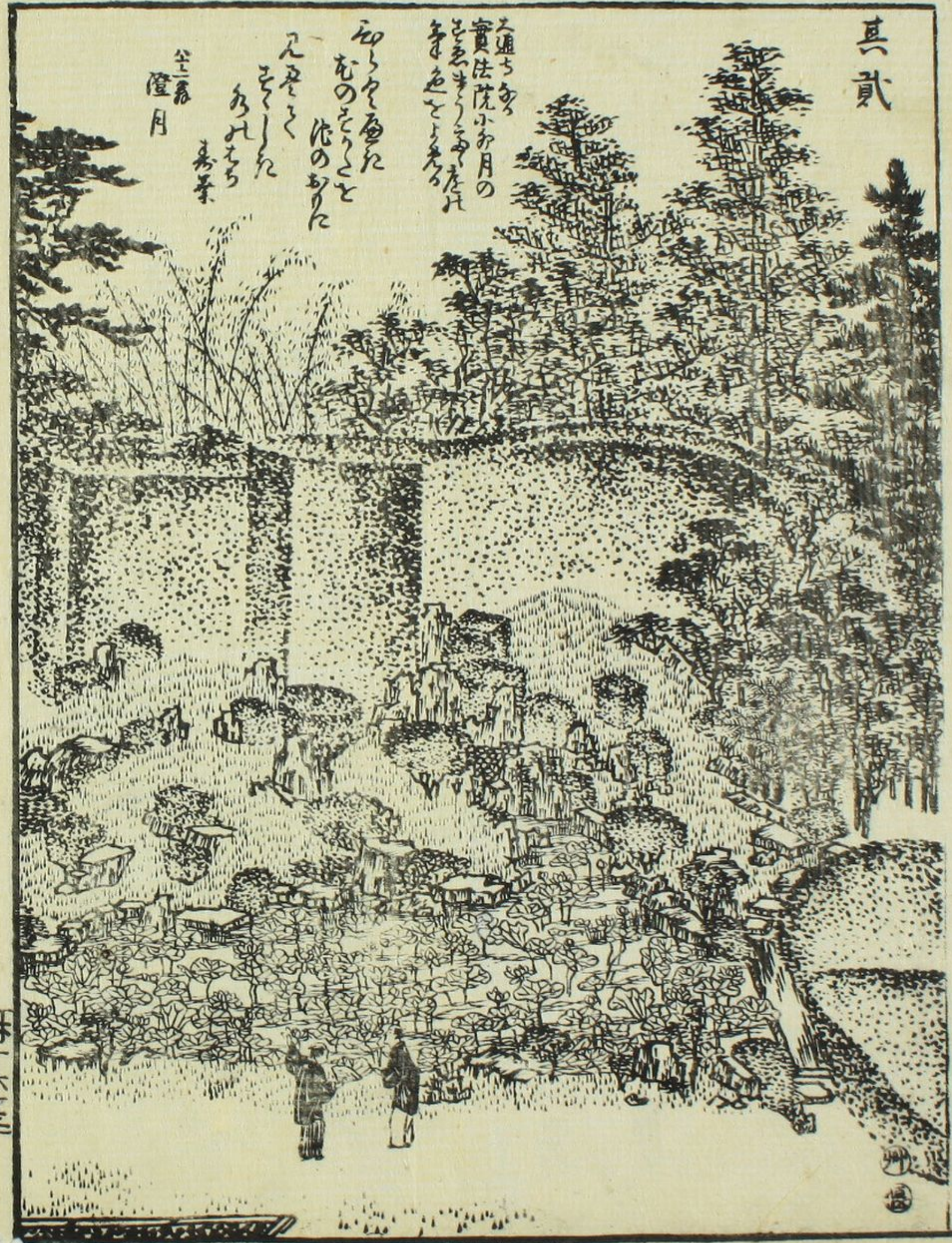
副藤之
 年次十二律者恩德院詮藝至樂人教秋之兩人歷十二箇年應永九年調畢故号之
 年次又調功黄辨盤造之之管者年次之同他詮藝所被潤置之也身又來調鐘
 之撰者 後花園内宇奏定於 禁裏撰金枝木金木 雖異音律相協故達上聞
 係有叔感是亦の靈寶自爾以未雖の恩德院累代交割今令嘉附長老坊
 者や社皆雖非法會之器唱器唱明梵唄助音之具也以之未代正於衆傍之音
 藝我願望茲滿而已

恩德院 或云今遍照心院塔頭有恩德院至千後世而迁之乎
 或云京程圖在八條室所東顯隆堂金名堂恩德院等載千一所云
 曉筆記云洛陽為洞院恩德院と竹のさへた心院及の所と名應仁の文亂の内名山院
 版の室かく是移ひしふもわ内なるは所死骸と思ひく恩德院へりなれり人

大通寺中
 實法院



其二



之通ちや
實法院小お月の
とあまきつるたれ
年とととる

初つをうた
むのさうこと
依のありた
んぞく

そりた
あれさち

全露
澄月

朝影
伝ふ化



大通寺
東林院
南谷所齋樓



○實法院編田心院塔額の林泉麩くしく東水の風景は遠く客の日乃眺む
あり特は蓮池ありくみふ月の花盛なり香芬々々しく紅白を
あつぢひ其外凡紅本紅蓮ふどの名茶多しあれはつらんや
朝日の出を待てる群衆あり騷人亦よみ詩仙もく水其茶を賞する事
和漢異るに歌女子が歩芳氣十里みけえ花の君子も賞は
蓮と愛する事予小同トは者何人とも羨むはふるたる

采蓮曲

采蓮溪上、女祇向花、多處花多人不見

碇亭

花底聞花語、
入花入見出花始見花、乃知薄情子

今

蓮の香や水をとろふ草莖二寸

蕪村

蓮水の舟朝日涼し、神の國

蕪村

○東林院同塔額の東林泉麩く東南より月日暮小英觀たる舟の人事
さしけ院を南谷所の住居ありく庭中の西は齋あり

一行の舟や踏ふ小月を和と

蕪村

東林院
其貳
南谷所
書齋
幻華庵

東林院の庭を
依りて山と
三日月の山
と云ふは
みづのほとり
にありて
山と云ふ
は東林院
の山なり



南谷所の
旧梅
樹

庭ふ
すまて
茅葺
のらゆや
あめくさ

はな





里和

宝輪院
茶亭
庭
容菴
作



林之六生



四



東寺
御影供

所教供目
未崔世
修系成足

物
能
七

足元
足

菜
り

山吹
五福

功
能
本
京都
調合
熊
九

林之六八



東寺山吹

岡本氏林泉

朝芳修之命と
 つとむの作りと
 額へ鳥石葛原の
 子と



東寺九條之宮河海抄云遷都のとき先東西の二宮ふを蕃寮に置弘仁
 以來東鴻臚に東寺と弘法大師賜ふ東寶記云大師東寺と給て
 尋真言密教の場と結構の堂舎造立の伴係年中行夏僧衆の威儀
 皆あやぐく唐の青龍寺の風を移して持造ふ京師の古寺をんを
 傳来の什物小鴻臚館より以前の書四本御ある等物一十年あ書代々
 の之政官符古抄の筆跡之師の書空寶庫五箇み銘より故小御茶出押
 めは時臨りあつて出る年もあ京師古刹の顔も垂簾の長者たは
 坊中寶輪院の林泉寺と京師水の中ふ沸泉之所あり高院の画と海心
 友若の筆九老の圖と都て出山坊中名画名筆多く林泉も亦多くしと
 新ふ沸泉の清水ありて樹木茂育する中他境も勝りてせられたる

都林泉名勝圖會卷之壹 終

林泉

